

特定非営利  
活動法人

ムラ工房Kが

新しいなか人の育成を

お手伝いします。

アフターファイブ。後は何をしようがかまわないと、スポーツクラブやカラオケボックスに足が急ぐ。いつも、これでは。仕事がなんだったのか、いささか寂しい。

東海村臨界事故、雪印牛乳食中毒事件、BSE問題。そして日本ハム偽装事件、全農企業偽装事件。

これらの原因はマニュアルの不備や社会的責任の欠如。だが、これらのセイだけではなからう。

働きがいが見出されないからではないか。

メダカは田んぼで産卵して川や水路で暮らす。

この種の自然は農業が生み出し、自然の大半である。

近頃この自然を多面的機能と呼ぶが、食料と並ぶ農業の仕事である。

大規模経営、多頭飼育、ハウス園芸が広がる。

二千万、三千万農家も生まれている。

だが、金だけでは都人と同じだ。

自然と地域を大切にこそ仕事に誇りを持ってよう。

子孫につなぐ仕事ができる鄙人こそ新しいなか人。



ムラ工房

## ■水と生命の世紀へ

社会・経済活動が集落や地域を中心として展開していた時代は、いうまでもなく【地産地消の世紀】でしたが、ご馳走はありました。今日、ご馳走は豪勢な食事のことをいいますが、本来はもてなしの意です。その馳は「馳せる」で走と同じことを意味します。庭先の畑の菜を摘んで客人にとれたての旬を味わってもらうことがもてなしであり、畑に小走りで菜を摘みにいく様から馳走という言葉が生まれたと考えられ、どこでも目にすることが出来たのではないのでしょうか。

20世紀を振り返ると石油と鉄が科学／技術の進歩に導かれた【火と機械の世紀】でした。私たちの暮らしは大変便利に豊かになりました。しかし一方で、地球温暖化など環境問題は深刻さを増し、人間は生命をつなぐことを真剣に考える必要に迫られています。そこで21世紀は【水と生命の世紀】、地球上の生物として存在するために生命の源である水と土を大切にしなければならない時代であります。

我が国の国土は38万km<sup>2</sup>、そのうち8割以上が農業地域及び森林地域であり、大半が農村です。また、年間900億トン使われる水の2/3が農業用です。この水と土を基礎資源として科学／技術の進歩に支えられて農業の生産性は向上、安定してきました。しかしその反面、農業・農村では土壌の劣化や水質の汚染、生態系の破壊など環境問題が深刻になっています。また、農地や水利施設の遊休化も顕著となっています。このため本来自然の循環に基づく生産活動である農業と地縁に基づくコミュニティである農村は【水と生命の世紀】の実現に向けて主導的役割を果たすことを期待されています。

### 【地産地消の世紀】

#### 水土循環に基づく農

##### 自給自足の経済社会

- 花鳥風月を楽しむ暮らしを称して  
ガーデン・アイランド
- 身土不二に代表される水土循環の農
- 農家による均質社会としての  
地域コミュニティ

##### 地域立脚の技術／事業

- 条里制による水田開発
- 大名による新田開発
- 乾田馬耕に対応した田区改正

### 【火と機械の世紀】

#### 生産効率に基づく農

##### 社会／経済活動の拡大・肥大化

- 大量生産・大量廃棄・大量消費  
による環境問題の深刻化
- 専作や施肥・施薬の多用など生産の  
近代化・合理化による水土循環の崩壊
- 過疎・高齢化や混住・都市化による  
コミュニティの崩壊

##### 技術／事業の高度化・専門化

- シビル・ミニマムを主眼とした技術／  
事業はマニュアル方式、トップダウン  
方式で展開
- 整備の画一化、技術の住民からの乖離

## ■水土循環システムの形成

農業を健全なものとし、農村を元気あるものとするため、自然と共生できる社会・経済活動が求められています。そして、あらゆる物質循環の基礎である水と土について、循環システムを形成することが必要です。また、地域の特性を生かした地域づくりと併せて、資源・施設を自律的に管理できる態勢づくりに取り組むことが欠かせません。このためには、生産機能の強化だけではなく、農村の環境保全及びコミュニティの活性化について、地域の条件や課題を総合的に明らかにした上で地域住民の合意を形成し、技術／事業を展開することになります。

これらの展開に当たっては、多様な分野を網羅する技術が求められ、従来からの物理系技術に加えて化学系・生物系技術、更には地域管理に関わる社会系技術を総合的に実践することになります。また、これらの技術・手法を多くの人々、子どもにとって、できるだけ身近なものにすることが重要です。

そこで、循環型社会の形成に向けて高度で多様な技術をコーディネートし、実践・普及できる技術集団としてムラ工房Kを設立しました。

ムラ工房Kでは、食農・植動・水土の学習活動を行い、【水と生命の世紀】の担い手である新しいなか人の育成をお手伝いします。また、農村環境の保全・整備のほか、地域振興と地域管理に関する調査・評価・研究・構想の支援活動を通して美しい農のかたちの創出をお手伝いします。これらの活動により水土循環システムに基づく農が確立されます。

### 【水と生命の世紀】

#### 水土循環システムに基づく農

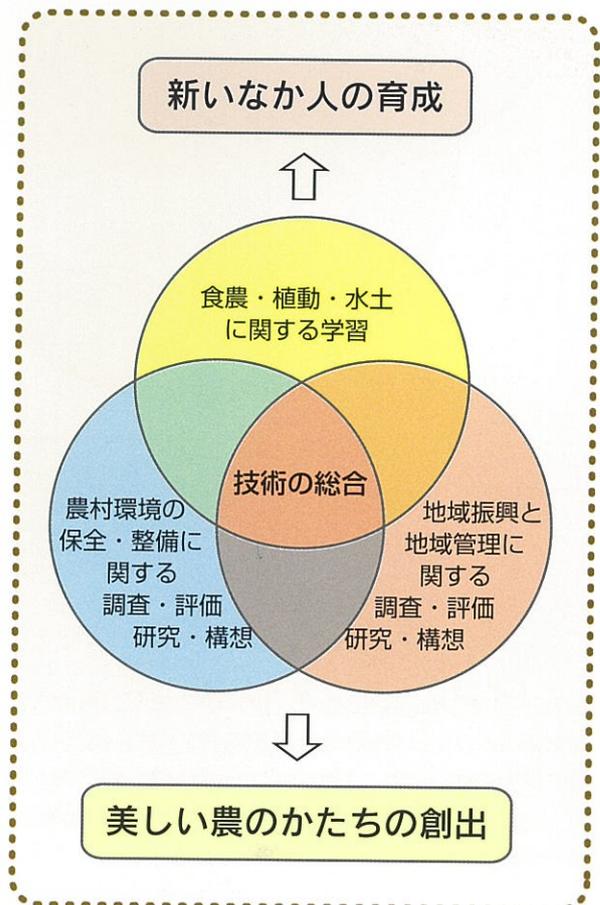
##### 循環共生活動の普及・拡大

- ゼロエミッションやリサイクル、自然破壊の再生による循環型社会の形成
- 土地の保全や水質の改善、生態系の保全による農村環境の保全・整備
- 地域の役割分担と連携、住民参画による地域の振興と地域管理組織の構築

##### 技術／事業の総合化・一般化

- 地域の特性を生かした技術／事業はハンドメイド方式、ボトムアップ方式で展開
- 整備の差別化、総合性確保と一般化

### ムラ工房Kの役割

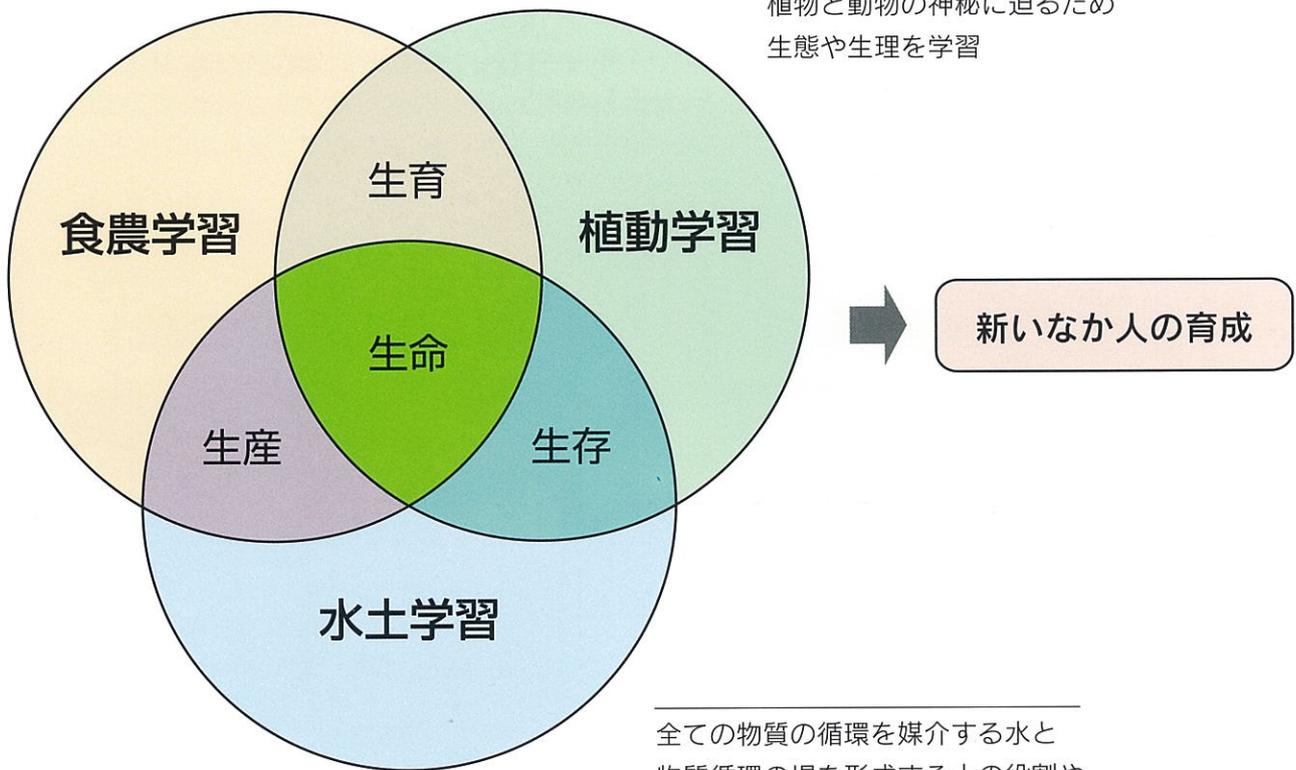


## ■食農・植動・水土の学習

人間が生存する条件とは？植物と作物の違いは？といったことは、誰もが知っていて当たり前のように思います。「水と生命の世紀」を生きるためには、それなりの知恵や情報が必要です。そこで、「水土循環システムに基づく農」の担い手・協力者である新しいなか人が育成されるよう、生命と生存・生育・生産の関係と条件を学習する活動を行います。

調理・加工や農作業の  
体験を通して食物の役割、  
農業の仕組みを学習

植物と動物の神秘に迫るため  
生態や生理を学習



全ての物質の循環を媒介する水と  
物質循環の場を形成する土の役割や  
メカニズムについて観察や実験を  
交えながら学習

### 〔インストラクター〕

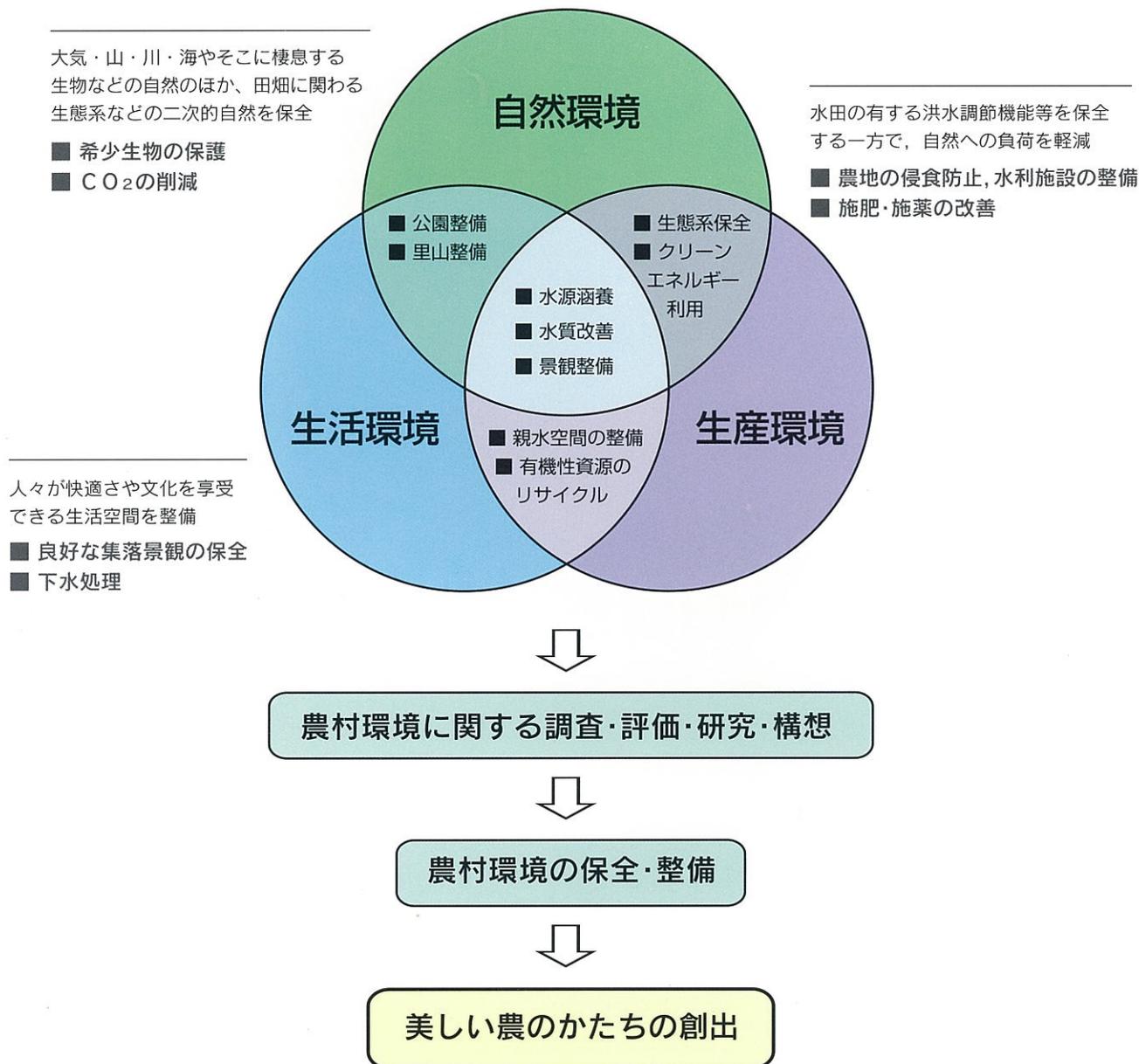
インストラクターには、ムラ工房Kのスタッフが中心となり、これに地域内外の達人・名人のほか、行政・企業・団体の専門家や技術者でネットワークを構成して当たります。

### 〔スチューデント〕

新しいなか人になりたい人は、誰でもスチューデントになれます。多くの人と一緒に学習できる公開講座も開設しますが、シルバー・女性・子ども・技術者など、それぞれの意見や希望を聞いてクラス分けします。

## ■農村環境の保全・整備

自然・生産・生活の3つの環境からなる農村環境について、安全・安心な生産と快適な暮らしを実現するとともに、農地の保全や生態系の保全、緑の景観の形成など多面的機能が発揮されるよう、調査・評価・研究・構想をお手伝いします。

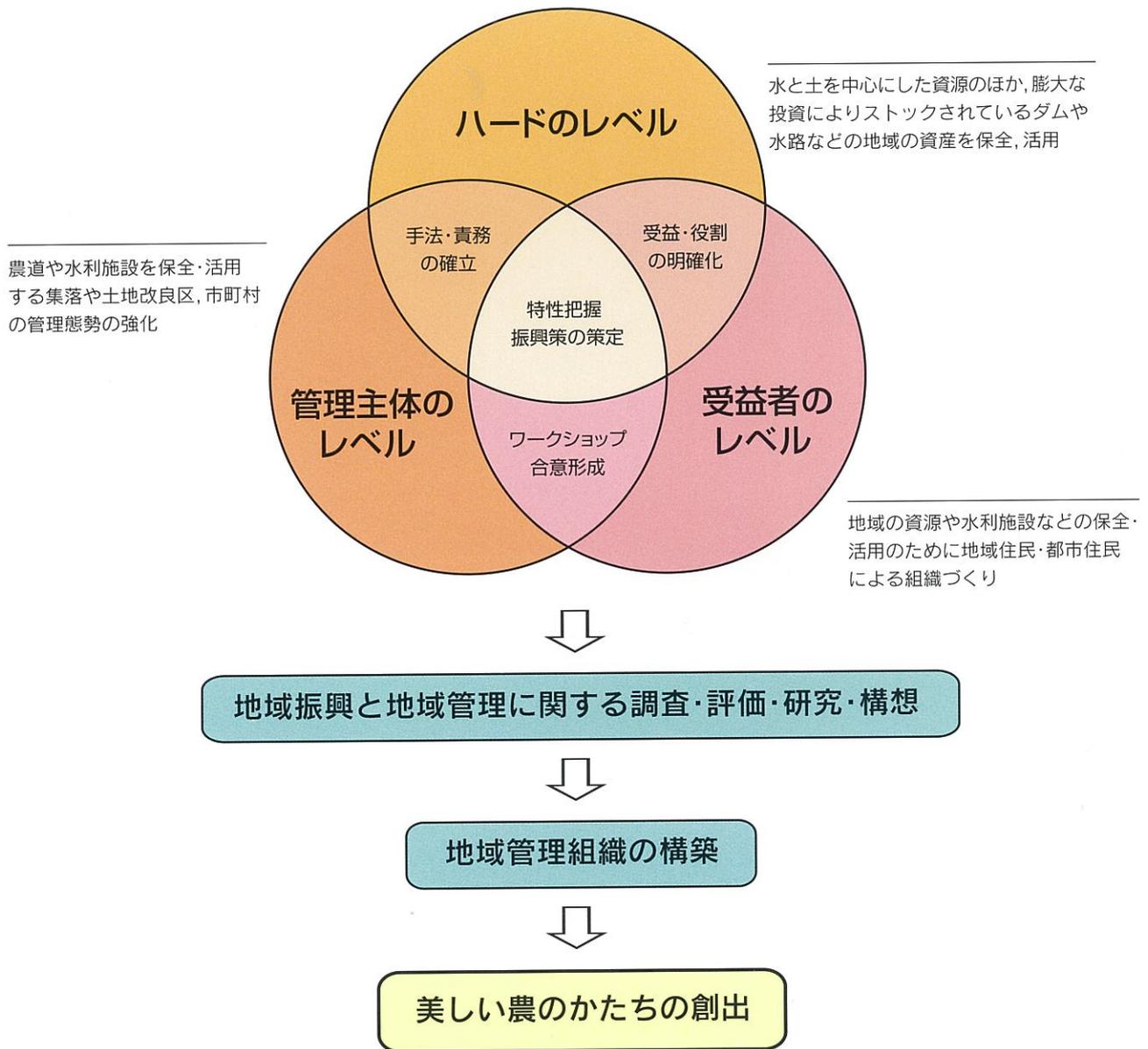


### 〔農村環境活動の進め方〕

農村環境の活動のうち、水源涵養や水質改善、生態系の保全などの課題は、三つの環境分野の相互関連において解決されることが必要です。また、農地・水利施設の整備や下水処理などについては、基本的に各分野それぞれによる対策ですが、他の分野への配慮が求められています。このため、研究者、専門家、技術者らによる高度、多様な技術をコーディネートして調査等を行って地域の特性を明らかにし、自然環境の保全、生活環境の整備、生産機能の強化のあり方をレポート助言します。また、技術の向上や社会構造等の変化に対応するために地域のニーズを踏まえ、課題発見や資源活用の段階から事業実施、更には管理の段階まで技術/事業のマネジメントに対応します。

## ■地域管理組織の構築

地域の資源をはじめ、水利施設等の公共・公益施設を適切に保全し、有効に活用して多面的機能を発揮させるため、高齢化や都市化など地域社会、産業構造の変化を踏まえ、地域の活性化、振興及び地域管理に関する調査・評価・研究・構想をお手伝いします。



### 〔地域管理活動の進め方〕

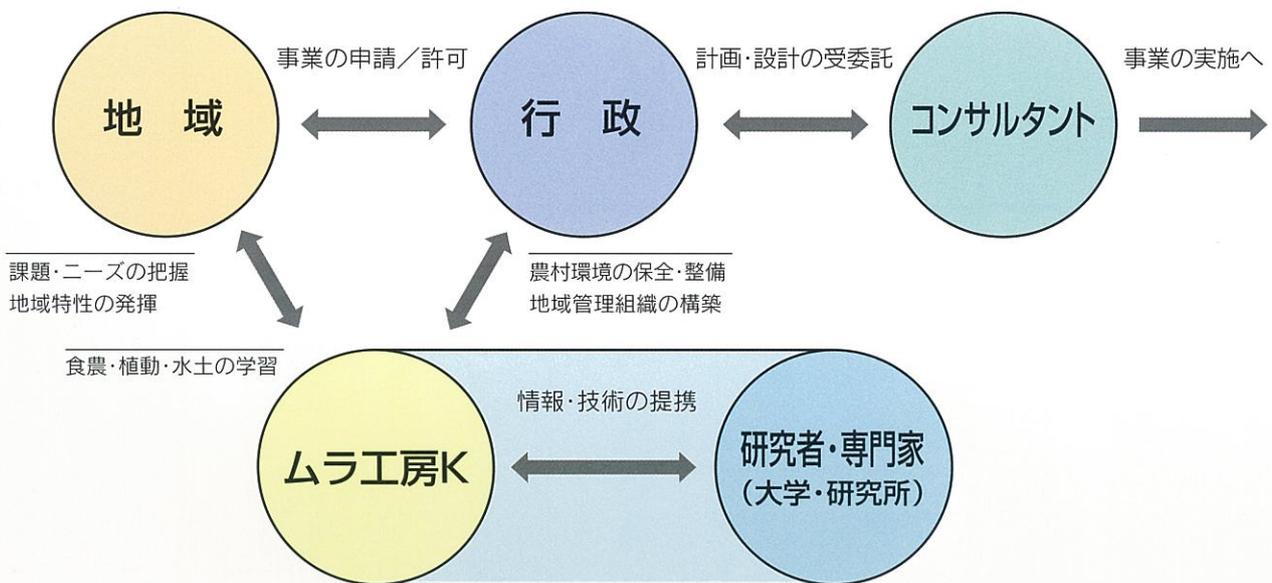
地域振興と地域管理では、集落や団体などの態勢を強化することと併せて、地域住民のほか都市住民を巻き込んで自律的な組織づくりに取り組むことが必要です。このため、地域の資源や施設の保全・活用に関する現状や問題点のほか、地域住民・都市住民のニーズや地域の社会・産業の動向を調査し、その特性を把握します。そして、地域の活性化、振興の方向と併せて、受益の範囲関係や理主体の手法・責任・義務の問題点を明らかにした地域管理のあり方をレポート、助言します。また、自律的な地域管理を積極的に推進するため、ワークショップやフィールドワーク等の技術・手法を採用するとともに、専門家による動機付けなどの活動を支援します。

## ■活動の基盤・精神・位置

ムラ工房Kの目標とする水土循環システムの形成を実現するためには、地域の特性を生かす観点に立ち、リサイクルなどによる循環型社会の形成、生産機能の強化を含む農村環境の保全、地域の活性化などによる地域管理組織の構築に取り組まなければなりません。その中には、定量化できない要素が数多く含まれているため、技術／事業を総合的に駆使することが求められます。そこでは、マニュアル型の技術展開からハンドメイド型の技術展開へ、トップダウン方式の事業実施からボトムアップ方式の事業実施へ軸足を移すことが重要になります。

このため、ムラ工房Kは、次のような特性を有して技術／事業を展開します。

- ①活動の基盤は、大学や研究所の研究者・専門家の高度かつ多様な技術力。
- ②活動の精神は、ボランティアによる特定の人たちに与しない地域第一主義。
- ③活動の位置は、地域及び行政と連携したトライアングルの支え役。



## NPOムラ工房Kが

## 美しい農のかたちづくりを

## お手伝いします。

不況の中でエステは大はやり。  
マッサージやパックによる美顔にとどまらず、  
ボディ・トリートメントは当たり前。  
突き出したお腹がホッソリとなるのだから。

近頃は海洋療法や東洋医学も応用され、  
リラクゼーション効果のエステも出現。  
心身の両面が美しくなつてこそトータルビューティー。

農道が走り、農地も六十四パーセントが整備された。  
鹿児島ブランドも推進された。

サツマイモ、ソラマメ、サヤエンドウ、  
お茶、ユリ、黒豚に黒牛と。

豊かな稔りが約束されるようになった。  
だが、チツソ過多の地下水、海に流出する赤土、  
蔓草の跋扈する田畑、コンクリート張りの水路。  
そこでは緑の回廊や水土の循環の再生が望まれる。  
高い生産機能と、これにマッチした環境、  
この両面が備わってこそ美しい農のかたち。

|           |  |
|-----------|--|
| 【設立認可】    | 平成15年1月20日   |
| 【本社】      | 〒893-1612 鹿児島県肝属郡東串良町池之原1271番地<br>TEL:0994-63-2454 FAX:0994-63-8639  |
| 【畑の郷水土利館】 | 〒891-0702 鹿児島県南九州市穎娃町牧之内15025-8<br>TEL:0993-36-3911 FAX:0993-36-3912 |